

ソーシャル・キャピタル醸成に効果的な地域活動に関する研究

秋田大学 学生会員 ○内山 綾菜 秋田大学 正 会 員 木村 一裕
秋田大学 正 会 員 日野 智 秋田大学 正 会 員 鈴木 雄
秋田大学 学生会員 金子 侑樹

1. はじめに

単身世帯の増加や核家族化に伴い、地縁的な活動の維持が困難な地域や社会的孤独感を感じながら生活する人が目立つ。近年ソーシャル・キャピタルがこのような問題の解決に繋がると考えられ注目されている。

本研究では、地域活動を通じた地域住民の関わり合いがソーシャル・キャピタル醸成に結びつくと考え、ソーシャル・キャピタルの現状と、住民が身近に感じる地域活動に焦点を当てた調査を実施した。人々の地域との関わり方や取り組み姿勢・活動評価が「交流効果認識」に及ぼす影響について考察し、醸成に効果的な地域活動の要素を明らかにすることを目的としている。

2. 調査概要

本研究では秋田市の地域活動が活発な泉地区、旭南地区を対象に、アンケート調査を実施した。表 1 に調査概要を、表 2 に各地区の特徴を示す。

表 1 調査概要

対象	泉、旭南
主な調査項目	1. 期待感 2. 地域住民の関わり合い 3. 責任感 4. 地域活動 (1)認知度 (2)交流効果認識 (3)参加状況 5. 身近な地域活動 (1)取り組み姿勢 (2)活動評価 (3)満足度
配布枚数	1 地区 400 世帯 × 2 地区 = 800 世帯
回収率	1. 泉 111 世帯 (回収率 27.8%) 2. 旭南 93 世帯 (回収率 23.3%)
回答者年齢構成	1. 泉 20 代 (1%) 30 代 (9%) 40 代 (22%) 50 代 (20%) 60 代 (23%) 70 歳以上 (25%) 2. 旭南 20 代 (3%) 30 代 (1%) 40 代 (10%) 50 代 (16%) 60 代 (34%) 70 歳以上 (36%)
回答者世帯構成	1. 泉 夫婦 (43%) 親と子 (46%) 親と子と孫 (7%) 一人暮らし (4%) 2. 旭南 夫婦 (39%) 親と子 (29%) 親と子と孫 (12%) 一人暮らし (18%) その他 (2%)

表 2 対象地区の特徴

地区	特徴
泉	・ 1961 年以降に建てられた住宅が多い。 ・ 人口構成は 30 代~50 代の割合が高い。 ・ 地区市民憲法に基づく泉地区協議会が 2003 年に発足。全町内会一斉清掃や地域でのお祭り等の中心的役割を担う。
旭南	・ 1950 年以前の住宅も残る。 ・ 人口構成は少子高齢化がやや進んでいるが、大きな偏りはない。 ・ コミュニティセンターの管理運営を地区住民が行っている。

泉は子育て世代の家族の割合が比較的高いのに対し、旭南は一人暮らしの割合が高い。また、60 歳以上の回答者の割合を比較すると、泉が 48%、旭南が 70%であり、高齢化が進む旭南で非常に高い割合を占めている。

3. 地位区別にみたソーシャル・キャピタルの評価

環境・人・地域の課題に関する項目で「地域の対応力における期待感」について分析した。ここでは全ての項目で泉の期待感が高い結果となった。旭南は参加者の高齢化、後継者不足による活動継続の難しさが問題視されていることが、期待感の低さに影響しているようである。図 1 に地域課題解決に対する期待感の結果を示す。

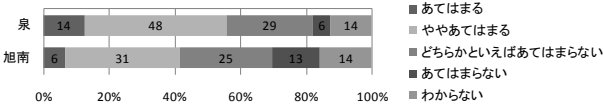


図 1 地域課題解決に対する期待感

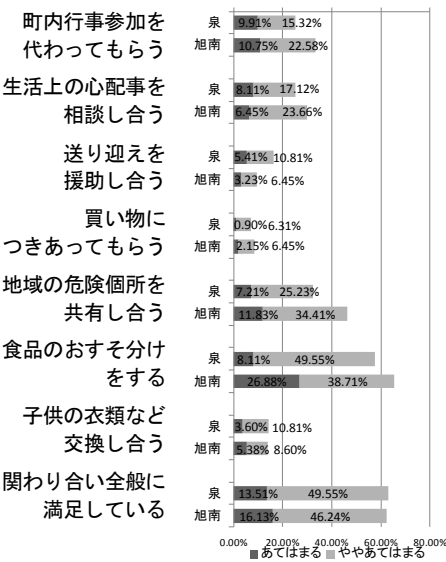


図 2 住民同士の貸し借り状況

キーワード：ソーシャル・キャピタル、地域活動

連絡先：〒010-8502 秋田市学園町 1-1、TEL(018)-889-2368、FAX(018)-889-2975

次に、「ふだんの関わり合い」を分析した。ここでは送り迎えの援助の項目で泉が高いことを除き旭南の方が全体的に高く、人間関係を重要視する地域であることが示された。しかし、全体の満足度では両地区共に約65%の人が満足しているという結果となった。

4. 地域住民に身近な活動特性

図3と図4は各地区の身近に感じる活動の集計結果である。泉では地区最大のイベントである「泉夏まつり」が過半数を占め、「協働清掃活動」「協働除雪活動」と日常的な活動が続いている。それに対し、旭南では、「協働清掃活動」、地区にある商店街の祭りである「草市」、「協働除雪活動」に票が割れる結果となった。

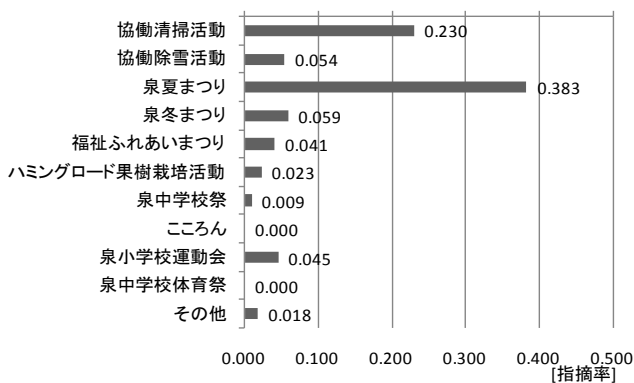


図3 【泉地区】身近に感じる活動

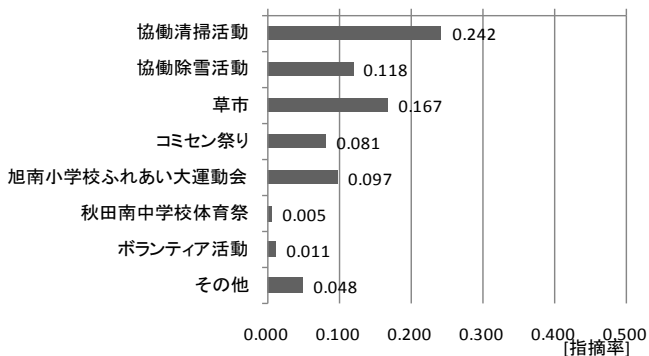


図4 【旭南地区】身近に感じる活動

この背景には祭りの参加形態があると考え。草市の参加者の多くは買い物がメインである。しかし、泉夏まつりは町内会が露店を出すなど、町内会の協力で成り立っている。地域住民が、「祭りに出かける」だけでなく「祭りを盛り上げる」ことで自らがその主役として祭りを捉えていることが身近に感じられる要因であると考え。また、両地区で協働清掃活動・協働除雪活動が上位にあるのは、イベント型ではなく日常的に個人や家族に関係する事柄であり、年齢や立場に関わらず参加を呼び掛けていることから幅広い年齢層の支持を集めた結果であると考え。

5. 地域活動が交流効果認識に及ぼす要因

地域活動が「交流効果認識」に及ぼす影響について、地区別に数量化理論Ⅱ類による分析を行った結果を表3に示す。レンジの値が高い5項目に着目すると、ここでは3項目が異なる結果となり、地区の特性が現れた。共通項目に関しては、「地域住民の共同作業が楽しい」「活動の中で困難に立ち向かう」の2項目である。住民が地域課題解決に向かい助け合うことが交流効果認識に影響しているようである。

また、泉では「情報の得やすさ」や、「参加を楽しみ」にしていること、「家族や友人に参加を勧めたい」項目が、高くなっていることから、気軽に楽しめる活動が交流効果認識に影響していると考え。一方、旭南では「参加の自主性」「参加のしやすさ」「居心地の良さ」が高くなっていることから、活動を通じて積極的に人間関係を形成していく意識が読み取れる。つまり、敷居の低さが交流効果認識に大きく影響していることが示された。

地域活動における「交流効果認識」上昇がソーシャル・キャピタル醸成に繋がるとしたとき、旭南のような古い町並みにおけるコミュニティでは、地域活動の雰囲気の良さが重要視される。また、子育て世代が多いコミュニティでは、情報共有を基盤に、楽しみながらも成果をあげることができる要素が求められることが示された。

表3 地域活動が交流効果認識に及ぼす要因

アイテム	泉	旭南
活動内容を把握している	0.3054	0.5046
自ら積極的に参加したい	0.1518	0.8121
活動の規模や頻度が適切である	0.2120	0.4334
日時や活動内容などの情報を得やすい	0.9163	0.5099
参加しやすい雰囲気である	0.1960	1.1209
参加が楽しみである	1.4562	0.1501
家族や友人に参加を勧めたいと思う	0.8187	0.6445
活動を通して達成感を得ることができる	0.3747	0.1697
地域住民の共同作業が楽しい	1.2685	1.1542
居心地が良い	0.5682	1.5712
参加準備が大変である	0.6252	0.2746
活動の中で困難に立ち向かう	0.6768	0.9361
活動を通して地域に貢献できる	0.5219	0.6630
この活動全般において満足している	0.3901	0.6633
相関比	0.5222	0.6399

6. おわりに

誰もが参加しやすい雰囲気であることが活動の新規参加者の取り込み、継続的な活動につながる。また、そこで出会う人々との共同作業を楽しめる地域活動こそ、住民にとってより身近に捉えられ、その活動と共にソーシャル・キャピタルも醸成していくという結果が得られた。